

令和7年度第1回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和7年度第1回清瀬市社会教育委員の会議が令和7年5月20日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和7年5月20日（火）午前10時から11時30分まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-4（対面開催）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、齊藤副議長、永嶋委員、渋谷委員、玉置委員
（オンライン参加）
松山委員

欠席委員 西田委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、西原係長、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、松山委員はオンラインで参加、西田委員は欠席）
- ・資料の確認
- ・令和7年度事務局の紹介

2 議題

- （1）不登校支援のネットワークづくりについて
- （2）清瀬市生涯学習基本方針の策定について
 - ・清瀬市の生涯学習についての現状と課題

3 報告等

- （1）令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の報告について

（倉持議長）

定刻になったので令和7年度第1回清瀬市社会教育委員の会議を始める。

まずは事務局より報告をお願いします。

(事務局)

社会教育委員の長沼校長が校長会での担当の改選ということで、この4月から清明小学校の渋谷校長に新たに社会教育委員をお願いすることとなった。

社会教育委員の任期が10月末までとなっており、今年度の10月31日が今の任期の切れ目となる。また11月から改選という形にはなるが、今回の議題の関係もあり、引き続き皆様をお願いしたいと考えているのでよろしくをお願いしたい。

(倉持議長)

前回の会議から間が空いているが、議題の不登校支援のネットワークづくりについて審議したい。

こちらは昨年度、継続して審議してきたということもあり、社会教育委員の会議の第4ブロック研修会のテーマにもした。教育委員との懇談会においても、教育長からこのテーマについて社会教育委員の会議で検討して欲しいという話をいただいた。

私たちが検討した成果を教育委員と意見交換をして、色々と前向きな検討をしたが、具体的なネットワークづくりの活動が何かできると良いというところまでを前回までの社会教育委員の会議で検討した。

前年度に私の所属する大学で、地域との連携事業という予算があるのでそれにエントリーをして、実際に進行していくための足掛かりにするというお話をさせていただいたかと思う。資料の募集要項を見ていただくと、4月の中旬に大学で募集があり、締め切りが5月15日だったので今日の会議に間に合わなかった。本当ならばこの会議で検討いただいて提出をしたかったのだが、齊藤副議長と事務局とで打ち合わせをさせていただき、社会教育委員の会議と教育委員とで検討したことを踏まえて申請書を提出した。

色々と課題があるが、基本的な中身については、これまでこの社会教育委員の会議で検討してきたシンポジウムのようなものができたら良いのではないかという中身で、昨年度に行った第4ブロック研修会に沿う形として共有ができているものだと思う。

ただ、スケジュール的な問題があり、申請書の裏面に事業計画が記載されているが、実施するとしたら8月なのかなというような話をしている。できれば学校の教職員や不登校支援をしている方、関心を持つ方などに来ていただきたいとなると、子供たちが夏休み期間の方が動きやすいのではないかということで、やるとしたら8月が良いということになった。

ただ、この申請が通るかどうかの結果の通知が6月中旬となる。また、この社会教育委員の会議の次回の会議が7月末の開催となると、会議の合間で話をして準備をしないといけない。今日はその内容を確認していただいた上で、まだ予算が出るかどうか分からないが、やるとしたらいつにするのか、どなたに登壇していただくのかなど、少し具体的に詰めて、認可が下り次第すぐに登壇者へ打診するなどしたい。

その他、事務局から補足があれば追加説明をお願いします。

(事務局)

スケジュールについて、結果が出るのが6月中旬なのだが、6月中に内容をかなり詰めていかないと8月の開催には間に合わないというところで、非常にタイトになる。その場合は今日話し合っていたいただいたことを基に、6月にメールにて、皆様にもご意見をいただきながら、確認の連絡調整を取らせていただきたいと思いますと考えている。

こちらの広報周知の日程については、8月の開催だと8月1日の市報に掲載するのが丁度良いと考えている。ただ、8月上旬に開催するか下旬に開催するかで、掲載のタイミングを見計らっていないといけない。例えば8月の中旬以降だと、8月1日の市報に掲載するのが効果的だと考えている。

もし、8月上旬に開催する場合は、7月15日号に掲載する必要がある。掲載原稿を市報担当課に依頼するのが、発行日の大体1ヶ月前になるので、6月15日には掲載原稿を何らかの形で出さなければならない。そうするとあまり時間が無い。

8月1日号の掲載で大丈夫ということであれば、7月1日までに色々と情報を集約し、掲載原稿を作成して市報担当課に依頼するという流れになる。

(倉持議長)

昨年度の4ブロック研修会だが、だいぶ時間をかけて準備したので、それをご記憶の方はイメージいただけると思う。

シンポジウム、フォーラムのやり方としては、前半3名ぐらいで、市内で不登校支援活動されている様々な立場の方に、どのような活動をされているのか、どのような問題意識を持っているのか、何が必要なのか、というようなことを各観点から話していただき、それを踏まえて後半はグループ活動という形で、お互いに意見交換や情報交換をする。ネットワークづくりを目的としているので、既に活動されている学校内外の方、様々なNPOの方やボランティアの方、福祉や教育に携わっている方、これからやりたい人など、様々な方に参加していただき裾野を広げていくという方向性でやる。

先程の話だと8月上旬は難しいので、8月中旬から下旬ぐらいが良いということと、こちらの日程で場所が空いているのか確認したい。

(事務局)

空いているかどうかはこれから確認しなければならないが、駅前のアミューホールか、市役所本庁舎の4階に研修室がある。そこはかなりの収容人数があるので、そういったところも開催場所の候補となりそうだ。日程がある程度決まった段階で、事務局で会場の仮押さえをしたいと思う。

(倉持議長)

では、西田委員が不在だが、日程から決めたい。8月のお盆明け以降で、18日の週か25日の週はいかがか。ただ、学校によっては夏休みが明け、登校日が入ってくる学校もあるかも知れないが。

(渋谷委員)

市内の学校には、25日の最終週から登校日が始まる場所がある。

(倉持議長)

それでは18日の週はいかがか。3時間ぐらいの開催だと考えると、夏だから涼しい午前中の9時から12時ぐらいでやるか、午後1時から1時半ぐらいでやるか。暑い時間に公共施設に集まって涼むというのも悪くない。開催時間として3時間ぐらいは必要かと思う。前半90分ぐらいで、1人に2、30分ずつ事例をお話しいただき、後半1時間ぐらいで意見交換をして共有するような時間があると良い。

平日土日も含め、まず事務局側で何か他の事業と被っていないか確認をお願いしたい。昨年アンケートをお願いしたジュニアリーダーズクラブのサマーキャンプなどはどうか。

(事務局)

恐らく被っていないと思う。

(倉持議長)

では、社会教育委員の皆さんから伺ったご予約を踏まえ、この18日から27日までの週のどこかで日程を決めたいと思う。午前の場合は9時から12時ぐらいで、午後の場合は1時から4時ぐらいでどうか。

本日欠席の西田委員のご予定も伺う。今のところ、比較的都合が良さそうなのは18日、19日、23日の午後と24日。西田委員と教育長の予定も踏まえると、日程が更に絞られそうだ。事務局に西田委員のご予定と会場の確認をお願いしたい。

次に、本日の資料の企画書をご覧いただきたい。登壇者に3つぐらい事例報告をしてもらう企画を柱にしているが、どなたに来てもらったら良いか候補を出したい。候補を出して、決定次第打診していく。

前回の教育委員との意見交換だと、学校内の不登校支援に携わり、学校での取り組みもされているという意味で、スクールソーシャルワーカーなどに来てもらうと良いのではないかという話があったので、お一人来ていただけると良いと思う。

その他に様々な団体や市民、NPOの方が携わっているが、前回の4ブロック研修では社会福祉協議会の方と、ウイズアイの方、齊藤副議長に登壇いただいた。保護者の視点から支援者になり、地域に根差してやっておられる方と、若い世代と高齢者をつなぐという観点で居場所づくりをされている地元出身だという方、齊藤副議長にはエプロンシアターでデモンストレーションとして、アイスブレイクをしていただいた。雰囲気もすごく良かったが、この企画もできれば学校内外の様々な支援者の方に来ていただきつつ、それに携わる市民の裾野を広げていきたいという考えもあるので、お一方はスクールソーシャルワーカーに来ていただくとして、あと二事例ぐらい、どのような方で、どのような活動をされている方がよいのか、皆さんのご意見を伺いたい。ジャンルとしては、市としてやっている活動と、校内別室なども市民がメインでやっていたり、保護者やNPOが色々な場づくりをしていたり、保護者支援をしてくださっているところもあるので、バリエーションが色々と聞けるのが良いのかなという気がする。

(齊藤委員)

民生委員の主任児童委員は、不登校の子供たちや子供食堂の子供たちと繋がる場を作っているというのを聞いたことがある。なかなか開示的ではないところなので、そのような情報がどれだけ発信できるか分からないが、そういうことをやっているというのは情報としてあった方が良いのかと思った。地域の中で個別に対応してくださっている。その方なら私があたれる。

(永嶋委員)

前はウイズアイにご登壇いただいたから、今回は清瀬こども劇場にするとか、様々な団体に関わってもらった方が良いと思う。

(倉持議長)

清瀬こども劇場も芸術を通して居場所づくりをしているので面白いと思う。

学校の内側と外側の両方をやりたいから、スクールソーシャルワーカーと校内別室と清瀬こども劇場だと、バランス的に少し学校の内側寄りになってしまうか。前回の4ブロック研修会では、学校と社会教育という観点だったので、学校と地域側からそれぞれのような形でバランスが良かった。

(事務局)

齊藤副議長が仰った民生委員となると、福祉という別の立場からの視点で見られるのかなという感じがした。

(倉持議長)

スクールソーシャルワーカーだと福祉的視点、教育と福祉の観点になる。地域の人にとってはスクールソーシャルワーカーの観点は興味深いと思う。

逆に、学校の中で活動している方にとっては、地域のボランティアやNPO活動が主力の方、学校の外にも居場所があるということを知るのも興味深いと思うので、スクールソーシャルワーカーには来ていただきたい。

レモンソーダさくらんぼの会、民生委員、清瀬こども劇場、スクールソーシャルワーカーなど、このあたりの方々にまず打診をして、予定が合わず難しいと言われたら、西田委員や齊藤副議長に相談し、地域の方をご推薦いただきたい。

ところで、アミューでやるとなった場合、定員はどのくらいだったか。

(事務局)

アミューの定員は120人ぐらい。前回の4ブロック研修会は円卓式でやったので、3、40人という感じだったが、長机と椅子を置いた形でやる場合は、もう少し収容人数を増やせる形になる。ただ、後半でグループワークやディスカッションを行うことを想定すると、かなりの大人数の場合は收拾がしきれないところがあるので、最大人数として、それぐらい入るというところ。

(倉持議長)

様々な関係者の方と関心のある方に来てもらえると良いと考えている。資料に書いてあるような団体や施設、職員やスタッフなどにもお声がけをし、ご案内を送っていく形になると思う。

イベント名をどうするか。議題の清瀬市不登校支援ネットワーク・フォーラムとするのか、何か良いタイトルを思いつかれる方がおられたらご意見をいただきたい。

それでは、広報をする時に必要なものは、タイトルと登壇者、日にちと時間、場所、場所によって定員の調整が入る。参加費は無料。今の段階でできることは、そんなところか。

(松山委員)

とても良い機会だと感じている。イベントはどうしてもその時だけの交流になると思うので、ネットワークづくりというところで、継続的に関係者が情報交換をし、悩み事があった時には共有できるような形など、そのような繋がりを作っていくようなものを目指していると感じている。そうすると、この研修会自体は、研修会後のネットワークづくりに向けて、どのようなイメージを持つのが大事だと感じているが、そのような理解でよろしいか。

今回は大学の予算でできるかも知れないということなので、とりあえず関係者で集まって話をすることなのか。ネットワークづくりということを謳って打ち出すのであれば、それを今後どうしていくかというメッセージがあると良いと思う。

(倉持議長)

ネットワークづくりや、今後どうしていくかなども、後半のグループワークで話すという手もある。それで自分たちでもやはり情報交換が必要だとか、情報共有が大事だということになっていけば、情報共有をするための方法を考えましょうとか、来年もまたこのような事例報告をし合う場を持ちましょうというように、内側からそうなることととても良いと思う。その場限りにならないようにということ。後半のグループワークのテーマとしても良いと思う。

それでは、原案をご検討いただいたので、スケジュールやご登壇いただく方など、スクールソーシャルワーカーや民生委員に声掛けするかも知れないといったように、内々で打診をしていただき、ゴーサインが出たら一気に動くという形にしたい。

次回の会議を待たずに、審査に合格したら皆さんにメールで一報をお伝えする。必要であればメールでご意見をいただきますので、その際はよろしくお願ひしたい。

(渋谷委員)

広報としてホーム&スクールのメール配信や、各学校へ掲示するポスターの配布などがあると、保護者の目に付いて良いかと思う。子どもは来ないけれども保護者が教科書を取りに来たり、スクールカウンセラーの面談に来たりするので。

(永嶋委員)

うちの大学にも掲示ができる。スクールソーシャルワーカーのコースの学生などもあるので、関心がある学生もいるのではないかと思います。

(倉持議長)

ぜひお願いしたい。審査には学生も関わらせなくてはならないと書いてあるので、教員を目指す学生やスクールソーシャルワーカーを目指す学生も何人か来てもらおうと交流ができて良いのではないかと考えている。審査で採択されてもされなくても、基本はやる形で進めていく。

それでは次の議題、清瀬市生涯学習基本方針について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

前回の会議でも少し話したが、教育マスタープランと併記して、清瀬市生涯学習基本方針というものがある。そちらを基に、生涯学習に係る様々な実行計画や施策を行っているところだ。

この基本方針の期間が今年度末までとなっており、令和8年度以降の基本方針というものを、今のこの時代や市の情勢、これから策定していく教育マスタープランなどと整合性を取りつつ、更新をしていかなければならない時期に来ている。

続いて、本日教育長より議長宛に、清瀬市生涯学習基本方針の更新について依頼が届いている。

内容を読み上げる。「人生100年時代、超スマート社会に向けて社会が大きな転換点を迎える中であって、生涯学習の重要性は一層高まっている。そのような中、一人一人が生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを活かして様々な分野で活動できるようにするための仕組み作りなど、生涯学習社会の実現のための取り組みが求められている。

現行の生涯学習基本方針は策定以来、本市の生涯学習施策の指針となってきたが、これからの社会的要請に応えるためには、更なる進化が求められている。

また現在清瀬市教育委員会においては、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策、その他必要な事項について基本的な計画を定める第三次清瀬市教育総合計画マスタープランの策定を進めており、今後の本市における生涯学習施策の方向性を示す基本的な指針の策定を必要としている。

以上のことを踏まえ、清瀬市生涯学習基本方針の更新に当たり、ご審議をお願いしたい。なお、審議成果に基づく提言は、令和8年3月までにご提出願いたい。」ということでこちらが届いている。議長にお渡しをさせていただくので、よろしくをお願いします。

前回の会議でも話をしたが、本日の会議はまた次回も引き続きになると思うが、今の生涯学習基本方針というのが令和3年3月に策定したものになるが、こちらを踏まえて、清瀬市の生涯学習についての現状と課題の洗い出しなどの意見交換を行っていただいた上で、施策、方針の方向性というものを、この後1年かけてまとめていきたいと考えている。前回の会議で、今の社会教育施設の利用状況がどのような推移できているかというようなことを議長からご質問いただいたが、こちらをまとめたものが社会教育施設

利用状況平成31年度から令和5年度と書いてあるこちらの表となる。

当市の社会教育法における社会教育施設に位置付けられているものとしては、シティプロモーション課所管の郷土博物館と、厳密に言うとな法的な位置づけは少し異なるかもしれないが、当課所管の生涯学習センター、そして図書館となっている。

コロナによる臨時休館や短縮運営というものが各館共通であったので、それに応じた開館日数になっている。開館日数が減っていることで、入館者数や利用者数とは全体から見れば減っているが、1日平均からしてみるとそれほど大きな差はなかったと感じた。世論調査の内容を見ていくと、生涯学習施設の充実など、施設関係の充実を望まれる声が多いために世論調査的には多いという印象だった。こちらは任意抽出になっており、16回17回と、同一人物が答えたわけではないので、その時の変化というところまでは押し量れないが、こちらも比べてみるとそこまで大きな変化はないという印象だった。

それをよしとして、そのまま維持していく方向で考えていくのか、それとも生涯学習施策を充実させ、更にこのポイントを伸ばしていくところも考えていくのかということから、生涯学習基本方針を更新するポイントになると事務局として考えている。

(倉持議長)

ハード面には限りがあるが、図書館にしろ、生涯学習にしろ、スポーツにしろ、施設の充実というものを清瀬市民は求めている。

稼働状況としては、やはりコロナで落ち込んだのが、戻ってきているところと、戻ってきていないところがある。

基本方針については、後半の基本方針の方向性、課題のところを見直すことになる。全体の基本目標は「学びと育ちを生かす循環型社会の実現」、基本方針は「人づくり、つながりづくり、地域づくり」、施策の方向性は6つあり、「市民が生涯にわたって学べる学習機会の充実」、「全ての市民が学べる多様な学習形態や情報提供の充実」、「学習した成果を活かす仕組みづくり」、「学びを通じた交流による仲間づくり」、「地域の連携や課題解決力の強化」、「清瀬らしさを活かした学びの活用と振興」、となっている。それを作り直すのか、補強するのか、修正するのか、もう少し検討していく。

(事務局)

現在同時並行で教育マスタープランの策定を進めているところだ。生涯学習に関する新しい施策が出てくるかどうかということも少し関係してくると思っている。今の時点ではまだ詳細は決まっていない。まずはこちらの会議の場において、この生涯学習基本方針を基に、これからの視点として必要なことや課題から、意見をまとめ、マスタープランとの整合性を図っていく必要がある。

(倉持議長)

上位計画も検討中なので、情報提供をいただきながら検討していくということだが、今日は皆さんからそれぞれの問題意識や課題、これから取り組んでいかなければならないことなど、自由にご意見を言っていただければと思うが、いかがか。

(永嶋委員)

今一通り見た上でだが、学びと育ちの循環、流れづくりというのはあるが、全体の印象として、各年齢層に応じて、その時その時の学びをするというところは分かるのだが、色々な年代の人たちがお互いに関わり合うようなところが表れていないと感じる。最初の目的に多文化共生という言葉はあるのだが、多文化は文化と言えば文化だが、世代が分断していて、子供世代と高齢世代の関わりは殆どない。

自分と同世代同士とか自分の世代の学びというだけではなく、他の世代の人や世代や属性などに関わらず、色々な人が交流して学ぶということが大切なのではないかと私は考えている。自分の経験から言っても、例えば、社会人の通信教育課程では、10代から70代ぐらいまでの人が一緒に学ぶこともあり、夜間制の社会人の大学院や専門学校などもある。そのようなところでは年齢層が本当に様々で、自分とは異なる年齢層や異なる属性の人たちと関わることによって、その学問分野を学ぶにしても、かなり深まりがあるのではないかと思う。そのような色々な人たちが関わるような、多世代と言うか、属性を超えたというような、そのような表現ができれば良いのではないかと思っています。多世代食堂と言っても、多世代はいるのだが、高齢者は高齢者、子供は子供で固まってしまうが、同じ場を共有するという意味では大切なこと。そこをもっとお互いが話し合えて交流ができれば良いと思う。

(渋谷委員)

そういった点では、私の学校だと、小学生が高齢者施設の方や障害者施設の方と交流をしたり、一緒にレクリエーションなどをしたりして交流をしている。地域の中でそのような場があり、子供たちが参加しやすいような色々なイベントがあると良いと思う。

(永嶋委員)

今までのこの会議の中で、市民文化祭に若い人たちがなかなか入って来ないという話があった。何年も同じ人たちがばかりでずっとやっている。どうしても同じ年齢層の人が話しやすいからと固まってしまう、若い人が後から入りづらい雰囲気があるという話だった。学校と施設の交流などでも、施設の人と子供たちという関係の関わりはあるが、なかなかそれが個々の理解へと繋がっていかないところがあるのではないかと思う。そこを何とかしていければ、もう少し違ってくるのかと思う。

小学校で昔遊びみたいなものがあると思うが、集団で教え合うとかではなく、1人の高齢者が1人の子供に対し、「こうやって独楽は回すのよ」ということをずっとやっていると、多分そこで個々の関係が生まれ、より理解が深まっていくのではないかと思う。そういう繋がりが社会の中で出来ていけば良い。

(渋谷委員)

昔遊びでは、独楽回し名人やお手玉・おはじき名人として、高齢者の方や、けん玉名人として大学生などの若い人が教えに来てくれたりしている。そのような機会が学校と地域の単体だけではなく、市としての開催などもあれば、「あそこでもやっているから今度あそこにも行ってみよう」など、子供たちが参加しやすいような関わりが増えて良

いと思う。

(倉持議長)

学校で教わって面白かったから続けてやりたいと思ったら、地域で関わりながら一緒に続けられる機会があり、小学生だった方が今度は教える側になっていくなど、そのような循環が起こると面白い。

(永嶋委員)

今スマホを持っている子供たちが多いが、例えば買い物にしても、人と関わらないでスマホで物が買えたり、道に迷ってもスマホで調べたりして人に聞かないで済んでしまう。昔はそこの歩いている人に「どこそこはどうやっていきますか」と聞いていたが、今はみんなスマホに頼ってしまい、人と人が関わらない。人と関わるのが面倒くさいと思ってしまう。そうではなく、人と関わることによって、同じことを学ぶにしても効果が違うのではないかと思う。スマホで学ぼうと思えば、今は何でも学べる時代ではあるが、そこだけでは深まらないと感じている。

(事務局)

これから検討委員会を開き議論をする予定だが、事務局の案として、教育マスタープランの新しい施策体系の1つに挙がっているのが、生涯学習・文化芸術・スポーツの支援という施策の柱だ。その下に生涯学習に関するものの方向性として、世代を超えた学びの機会の提供という文言が挙がっている。その下に色々な事業案を紐づけていくというような考えで進めているところである。

永嶋委員が仰る通り、多世代に向けるのは良いのだが、世代間の繋がりが、なかなか見えてこないというご指摘だった。そのようなところがこの基本方針で謳えると、マスタープランを補ったり、更に補強したりする意味があるのかと思う。

(松山委員)

今のお話を伺い、基本方針を読んでいて少し気が付いたことなのだが、人づくり、繋がりづくり、地域づくりという3つの基本方針があり、9ページの体系図を見ると、それぞれが独立しているような印象を受ける。内容をよく読んでみると、例えば人づくりが繋がりづくりに繋がり、繋がりづくりが地域社会の豊かさに繋がっていくという、その3つが関連しているということを強調しているのが分かる。既にある観点をもう少し分かり易く体系図として見せ、施策の方向性ももう少し関連させられないかと感じた。

個人に対する様々な働きかけやサポートという観点が前面に出ている感じがするが、様々な人との関わり合いの中で、地域自体が育まれていき、その土台となるのが人を育てることだということが、もう少し出ると良いと思う。

もう1つ気になるのが、施設の充実をもっと欲しいというアンケート結果がたくさんあるが、ここで言う充実とは、必ずしもハード面をもっと立派にしてくれということだけではないような気がする。その充実とは果たして、どのようなことなのだろうかと考えている。もし自由記述などがあるのならば、皆さんが施設の充実に対するニーズ

として何を思っているのかを考えていけると良いと感じた。

(倉持議長)

施設の充実が表す市民の考えをもっと深掘りし、この施策の体系も関係性が分かるような、モデル図的な表にした方が見た時に分かり易そうだ。

他にはいかがか。

(齊藤副議長)

今清瀬市は、施設に関して色々と変わってきている時期だと思う。図書館についても本の宅配という新しいサービスが導入され、本格スタートをしたり、各地域センターにおいても指定管理者が管理をするようになったりなど、色々と大きな動きが出ているので、そのあたりを皆さんがどう思われているのかということと、便利になったとか、もっとこうした方が良いとか、皆さんが不安に思っている時期なのではないかと思い、そのようなことも、市民の立場として知りたいと思っている。

また、学校にしてもCSが導入され、どのように変わっていくのかということと、学校の保護者については、今PTAや保護者の会が無くなったり、縮小したりしているので、子供たちや様々な施設へのアプローチであったりとか、そのような関係性は学校に来ていただければ交流ができるが、保護者世代が少し学校から一歩引いているというか、入りたいたけれども、PTAや保護者会の活動も少し減少しているので、保護者は学校とどのように関わったりしていけばよいのかが分からないでいる。私が10年前にPTAで居た時と、少し状況や感覚が変わってきたのかも知れない。

(倉持議長)

清瀬でもPTAが無くなる場所が出てきている。子供をめぐる変化は、親や地域の変化にも繋がると思う。先ほどの施設の変化も、指定管理になり良くなったところと、何かやり辛くなったところが無いかなど、もう少し探してみたい。コロナ以外にも、この5年の変化があるかも知れない。生涯学習をより、生き甲斐や自己実現、市民ニーズを満たすものとして捉え、学ぶことによって地域の繋がりを作ったり、地域で何かの担い手になっていたり、その部分をより強調するのか、或いはシティブロモーションによって地域の特色を活かすなど、より強調したり大事にするものをどこにするのかということによって、強調の仕方や計画、表現の仕方などが変わってくると思う。

(渋谷委員)

資料を見ると、市民は何か地域に対して貢献したいという思いもあり、自然環境や伝統文化、祭りやイベントなどにも参加してみたいと思っている。市民がこのように思っていると、多分子供たちも祭りやイベントが好きだし、よく清瀬の子どもは川で遊んでいる。塾に通うというよりも、私の学校の子供たちは公園で遊んでいて、公園に行けば絶対子供たちに会う。6年生にも会う。小さな団地の公園で、よく男女で遊んでいて、そこで花見をしている子供たちもいる。そんなところに子供たちも参加し、大人や地域の人たちも、ここは参加してみたいな、貢献してみたいな、と思うようなイベントや祭

り、行事のようなことを何か企画してあげることも大事なのかと思う。

多分こちら側でこういうのをやったらいいだろうと発信するのではなく、地域の方のニーズに応じた企画をしてみると良いと思う。

(永嶋委員)

祭りの話があったが、お神輿を担ぐとか太鼓を叩くとか、やってみたいと思う人は多分たくさんいると思うが、どうやってそれをやったら良いのか分からない。あれは人と人との繋がり、繋がっている人はお神輿を担ぐところに紹介や口コミがあってできるが、一般の人がやりたいと思っても、入って行き方が分からないし、皆が積極的な人ばかりではないから、やりたいですとはなかなか入って行けない。本当はやりたいが、繋がりが無いからできない。多分、生涯学習もそうだと思うが、繋がりがあれば、太鼓を学びたいといった場合、そのような所で繋がることもできる。だからあまり関わっていない人が関わるような仕組みが大切だと思った。

また、個々の学びも大切だが、例えば親子で、保護者と子供と一緒に学ぶとか、そういったことがとても大切だと思う。

今保育園で世代間交流の活動をしている保育園の園長先生から聞いた話で、高齢者と子供との交流を保育園でやっているのだが、子供がおばあちゃんに触ろうとしたら、保護者が「汚いから触っちゃダメ！」と言ったという。それはもう子供の教育の問題ではなく、その保護者の問題でもある。だから子供と保護者とと一緒に学べる機会があるととても良いと思っている。

(松山委員)

これまで清瀬の色々な地域や、こういった場で知る機会があったり、関わらせていただいたりした中で感じたことが、皆が結構充実していると思うことや、子供も含めて地元愛が強い地域なのだろうなということ。地元で色々な人が関わり合うような機会がたくさんあり、私がまだ知らないような、地元で根づいた色々なものがあるのだろうと感じている。生涯学習センターのことで少し聞いてみたいのだが、センター機能として、地域の様々な活動と人を繋いだり、情報を集約して発信したりしていくということが、とても大事だと思っている。そのあたりの情報提供や情報集約の部分は、今現状どうなっているのか。もしかしたら情報をキャッチできる機会がなかなか無く、まだ課題があるのではないかと思ったが、そのあたりはいかがか。

(事務局)

生涯学習センターの関係で申し上げますと、今市内の文化活動をされている団体とスポーツ活動をされている団体の紹介冊子である「まなびすと」というものを毎年1回作成している。冊子は生涯学習センターで作成しており、各センターなどで配布している。こういった活動に参加してみたいが、市内にどのようなサークルがあるのかといった問い合わせがある際に差し上げており、毎年9月頃に更新している。

(松山委員)

サークル活動に関しては、関心のある人がそこで知る機会がきっとあるのだろうと理解したが、やはりサークルというどうしても高齢者という印象もあるので、もっと様々な世代がイベントや地域の活動などに関われるような、何かきっかけとなる情報発信がもっとできる可能性もあるのではないかと感じている。

(玉置委員)

お祭りなどのイベントは、やはり皆さん興味がある。私は体育協会に所属しているのだが、先日清瀬市のスポーツイベントをやった。前回課題になっていた清瀬市民文化祭や駅前で行う市民まつりがあったが、それに対しては興味のある人しか来ないということが実際あると思う。

例えば、展示会のようなイメージで様々なジャンルを混ぜて、本当の「清瀬まつり」をやるのはどうかと考えている。スポーツのブース、文化のブース、お神輿も担げるブースなど、全部のジャンルを混ぜ、清瀬市民が興味のあるところに行ったり、知らなかったジャンルをそこで知ったり、本当の一大イベントをやるのも良いと思う。

逆に、それらを知ってもらうきっかけ作りを仕掛けるというのも良いのではないかとずっと考えていた。結局スポーツフェスティバルをやっても興味のある人しか来ない。スポーツ競技だけではなく、歩くこともそうだが、そういう健康づくりに対するブースなどあれば、例えば企業がスポンサーについたらお金の部分も市からではなく、協賛金が集められると思うし、地元の企業もそのようなイベントに貢献しようとするかも知れない。それに各地域や各地域センターも、売り込みをこの一大イベントで一度大きくやる方が、色々と解決が早いと思う。そこで課題などを情報交換しながら、解決していくのが良いのではないかと感じる。結局個々で動いても、何も解決しない。清瀬まつりと題し、ここに来れば全部体験できるといったような、清瀬をアピールする一大イベントをやるのはどうかと思っている。

(倉持議長)

世代のミックス、イベントやテーマのミックスなど、今までの枠組みではないことで、自分と同質ではない人と出会う場や機会があり、そこから刺激を受けたり、関心を持つことで、違う組織やジャンルの人たちが出会い、新しい事が生まれたりするかも知れない。

(事務局)

生涯学習センターの自主事業として、生涯学習事業を指定管理者が実施しているが、各地域市民センターでも自主事業として、カルチャーや体を動かすタイプの講座など、色々と開催されているので、何かそのような事業一覧のようなものはお示しできると思う。絵を描きたいのだけれども、何かサークルを知っていますかというような問い合わせは、年間を通して少なからずあるので、やはりこの「まなびすと」のような情報の提供は必要だと感じている。「まなびすと」は要望があれば配り、各公共施設でも閲覧できるようにしている。

(倉持議長)

「まなびすと」を見ると、後半に施設利用ガイドもあったりして、私たちが学びの場やスポーツについて考えるのには良さそうだ。掲載内容の表現の仕方については、次回検討いただくとよいのかなという気はする。

ではまた次回、委員の皆さんには資料等をお目通しいただき、また違った観点でご意見等があれば考えていただき、次回に持ち越しいただければと思う。

それでは、令和7年度東京都市町村社会教育連絡協議会定期総会の報告について、事務局より願います。

(事務局)

4月19日の土曜日に、前会長市の町田市で令和7年度都市社連協の定期総会が開催された。メールで既に議案が全て通りましたとご案内させていただいたところだが、昨年度は第4ブロックの幹事市ということで、色々と時間をかけて皆様に研修会の内容や報告までやっていただいた。今年度は清瀬市としては特に都市社連協の中での役割や役員はない。また会議や交流大会の案内などが届き次第、皆様に情報共有をさせていただきたい。

(齊藤副議長)

こちらの社会教育委員のフォーラムに関連して、青少協でも11月29日の土曜日に5地区合同事業の講演会がある。こちらでも不登校支援のネットワークづくりに関連した講演会を開催したいと思っているので、そちらにも社会教育委員の皆様には是非ご参加いただければと思っているのでよろしくお願いいたします。

(倉持議長)

次回の会議は少し間が空き7月29日となるが、その間に恐らく数回メールが飛び交うと思うので、色々ご対応いただければと思う。

それでは、これで令和7年度第1回清瀬市社会教育委員の会議を終了する。